

1 教育目標

- |  |
|--|
| (1) よく考え 本気で学ぶ子ども<br>(2) 元気で たくましい子ども<br>(3) 思いやりがあり 助け合う子ども |
|--|

2 学校経営の方針

- |   |
|---|
| (1) 新しい時代に必要な資質・能力を身に付けさせるという学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導と評価の一体化による「主体的・対話的で深い学び」を目指した <b>授業改善</b> に努め、「学ぶ喜び」を味わわせる。<br>(2) 児童の様子を児童・生徒指導、教育相談、特別支援教育の3つの視点から <b>総合的に見取り</b> 、関係機関と連携しながら、一人一人の <b>特性に適した支援</b> を行う。<br>(3) 危機管理の観点から、 <b>児童の危険回避能力の育成</b> に取り組み、問題行動や事件・事故の予防に努める。<br>(4) 健康教育の充実を図り、地域・家庭と連携して <b>心身共に健康な児童の育成</b> を図る。<br>(5) 特別活動や総合的な学習の時間を中心に <b>ふるさと学習とキャリア教育を推進</b> し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを支える人材の育成に努める。<br>(6) <b>コミュニティスクールの導入</b> により、地域とともにある学校づくりの一層の推進を図る。 |
|---|

3 今年度の重点目標

(1) 確かな学びを育む	①学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の実施 ・ねらいの明確化による指導と評価の一体化 ・授業改善による「学ぶ喜び」のある授業 <b>先生の授業は分かりやすい 90% ⇒ 【93.3%】</b> ②個々の特性に応じた適切な支援 ・TT、ユニバーサルデザイン、ICT機器を活用した授業の実施 <b>各教科（国・社・算・理・生・外）の学習が好きな児童 80% ⇒ 【82.8%】</b> ③主体的な学習習慣の確立 ・家庭学習の時間の確保と学習内容の充実 <b>宿題や自主学習への取組 80% ⇒ 【92.9%】</b>
(2) 豊かな心を育む	①学校・家庭における読書活動の推進 ・学校司書との連携による読書指導 <b>本を読むことが好きな児童 80% ⇒ 【74.2%】</b> ②いじめ等問題行動の未然防止 ・道徳教育、児童・生徒指導の充実 <b>学校生活が楽しい児童 90% ⇒ 【96.9%】</b> ③自分の生き方を考えさせる指導の充実 ・ふるさと学習とキャリア教育の推進 <b>将来の夢やなりたい自分がある児童 80% ⇒ 【88.0%】</b>
(3) 健やかな体を育む	①健康的な生活習慣の確立 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の推奨 <b>実行した児童 85% ⇒ 【91.6%】</b> ②体力・運動能力の向上 ・体力向上プログラム活用による課題克服 <b>新体力テストB以上の児童 40% ⇒ 【32.3%】</b> ③安全・防災教育の充実 ・訓練を通じた危険回避能力の育成 <b>安全・防犯・防災知識の定着 95% ⇒ 【96.0%】</b>

4 評価表

評価の「A」は優れている、「B」は良い、「C」は改善の余地あり、「D」は要改善

項目	具体的評価指標	自己評価			学校関係者評価 学校運営協議会委員	達成状況 成果○と課題▲
		児童	保護者	教職員		
教育課程	①学習指導要領の実現を目指し、児童や学校の実態、保護者や地域の意見要望等を踏まえた創意ある教育課程を編成・実施した。			B(前) ↓ A(後)	A	<p>【教職員前期】</p> <p>○前年度までの教育課程上の課題や反省点を洗い出し、今年度の教育課程を作成した。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○今年度の実践から浮かび上がった教育課程上の諸課題を整理し、来年度の計画に反映していきたい。</p> <p>▲今年度より日課が変更されたが、時間配分に無理があるところがある。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <p>・課題の整理ができています。来年の計画に反映をし、よりよいものにしてほしい。</p>
学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」を実践し、学習意欲を向上させた。 <b>各教科(国・社・算・理・生・外)の学習が好きな児童 80%</b> ⇒ <b>【82.8%】</b>	A				<p>【教職員前期】</p> <p>○4年の書写で、国語辞書や漢和辞典を活用し、筆順や漢字・言葉に関わる話題を提示した。漢字や言葉への関心を高め、主体的に文字に関わろうとする姿勢を育む活動を取り入れた。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○5年理科「ヒトのたんじょう」で、課題選択型の調べ学習を行い、主体的な学習活動が見られた。「ふりこのきまり」では、実験方法の説明を意図して省略することで、児童自らが方法を調べ、活動できた。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <p>・特になし。</p>
	②指導と評価を一体化した授業の展開により、「分かる授業」が実践できた <b>先生の授業は分かりやすい 90%</b> ⇒ <b>【93.3%】</b>	A	A			<p>【教職員前期】</p> <p>○5年理科の学習で、実際の気象情報を活用し台風の進路について調べるよう声かけを行った。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○学習指導主任を中心に校内研修会を行ったり、計画的に研究授業等を実施したおかげで、教員一人一人の指導力は向上していると思う。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <p>・特になし。</p>
	③主体的な学習習慣が確立できた。(家庭学習の時間の確保、家庭学習の内容の充実、児童の取り組み状況等) <b>宿題や自主学習への取組 80%</b> ⇒ <b>【92.9%】</b>	A	B	B ↓ A	A	<p>【教職員前期】</p> <p>○各学年で作成する家庭学習の記録(毎週の宿題シート)の活用が、保護者の協力や安心感につながった。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○家庭学習の記録や家庭学習強化週間チェックカードを活用する等、校内で統一して取り組む流れができています。児童も保護者も学習習慣が定着していると感じています。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <p>・特になし。</p>
	④読書活動の充実(学校司書との連携、図書室の積極的な利用)と家読の推奨を実施した。 <b>本を読むことが好きな児童 80%</b> ⇒ <b>【74.2%】</b>	B	B	B ↓ B		<p>【教職員前期】</p> <p>○移動読書館で高学年児童が進んで本を借りる姿が見られた。</p> <p>○図書室活用として読書ビンゴを行うなど、学校司書が工夫を凝らしている。</p> <p>○朝の読書タイムに読み聞かせを取り入れ、本に興味を示す児童が増えた。教職員による読み聞かせも、児童の本への関心を高める一助となったと思う。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○6年理科「大地のつくりと変化」で、化石教材について調べる際に、図書室を活用できた。</p> <p>○リクエストブック(購入)や本みくじなどで、より児</p>

					<p>童の関心を高めることができた。</p> <p>▲教職員の業務負担の観点から、職員による読み聞かせはなくてよいと思う。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と保護者の評価がBというのは、妥当であると感じる。</li> <li>・保護者のおすすめの本というのもあってもよいと思う。(以前はあったが、保護者の負担を考えてなくなってしまったのだと思う。保護者同士でも話題を共有できた。)</li> <li>・読み聞かせなど、埴・星の宮の宝を育てる会でも協力できることがある。</li> </ul>	
キャリア教育	<p>①地域素材を生かした体験活動を実施することで、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に努めた。</p> <p><b>将来の夢やなりたい自分がある児童 80%</b> ⇒ <b>【88.0%】</b></p>	A	A	B ↓ B	B	<p>【教職員前期】</p> <p>○各学年で校外学習活動を通し、地域素材や人材とふれあう場を設定していた。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>▲サツマイモ収穫だけでなく、苗植え活動も実施したいと考えるが、畑が今年度限りということで、来年度以降の活動が不透明である。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度予定されているバケツ稲の学習では、埴・星の宮の宝を育てる会で田植え支援の協力をすることができると思う。</li> </ul>
児童指導	<p>①「学業指導の充実に向けて」(県教委)に基づいた、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を適切にしている。</p>	A	A			<p>【教職員前期】</p> <p>○昨年度より児童の挨拶が改善され、大きな声での挨拶が増えた。授業開始時の挨拶も大きい声でできていた。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○廊下の歩き方や丁寧な言葉遣い等、教師が進んで行い、児童の手本となるよう努めている。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生がお手本というのはとてもありがたい。</li> </ul>
	<p>②教育相談や児童の観察を定期的に行い児童の小さな変化を見逃さず、問題行動の早期発見に努め、児童指導の充実が図られた。</p> <p><b>学校生活が楽しい児童 90%</b> ⇒ <b>【96.9%】</b></p>	A	A	B ↓ A	A	<p>【教職員前期】</p> <p>○様々なタイプの問題をもつ児童が多い中、保護者対応も含め先生方は細やかな対応をしていると感じる。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○休み時間等、児童と触れ合う機会をもつように心がけている。</p> <p>▲放課後、休日等の学校外での児童間のトラブルがあり、しかもSNSなど目に見えないところでの問題が散見している。学校が介入しなければならぬ場合もあり、ますます教員の多忙感が増す一方と思われる。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSの児童間のトラブルは、今後、どんどん形が変わっていくと思うので、対応がさらに大変になっていくと思う。引き続き柔軟に対応してもらいたい。</li> <li>・この問題は学校でどうこうではなく、保護者が子どもを監視することが大切だ。</li> <li>・SNSのトラブルについて、保護者は危険性を分かっている人がほとんどだと思う。しかし、子どもに注意をしても、子どもは動画等をアップしてしまう。小学生という年代は、親が監視しないといけない。もう一度しっかりした場面で、保護者に向けて注意喚起の呼びかけがあってもよい。</li> </ul>
	<p>③組織的に児童指導に取り組み、関係機関と連携しながらチームで支援ができた。</p>	A	A			<p>【教職員前期】</p> <p>▲先生同士や関係諸機関と連携し、時にカバーし合いながら児童への支援を行ってきた。どの児童にも十分な対応を行うには人手が足りなく感じる。児童の課題が多様化を感じる。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○SSW、SCとの連携をしたり、町福祉課の協力を得たりしながら、該当児童、保護者への支援を実施している。</p>

				<p>○問題行動や登校渋り等心配な児童がいるが、学校、SSW、町の福祉課等が一緒に対応を考えてくれるので助かっている。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
特別支援教育	<p>①全職員の共通理解の下に、校内支援体制を適切に整備し、特別支援教育についての理解を深め、適切な支援を行った。</p> <p>※個々の特性に応じた適切な支援、ユニバーサルデザインによる授業の実施、個別の指導計画、関係機関等との連携</p>		B ↓ B	A	<p>【教職員前期】</p> <p>○特別支援学級の配慮児童に対し、多くの職員が気にかけてくださるので、ありがたく感じている。</p> <p>▲補教の時に、ある児童がタブレットPCを使ってゲームをしたりアニメの情報を見ていたりした。どこまでが許可されたもので、どこからが児童への指導をすべきものか判断が難しかった。</p> <p>▲一部の保護者との齟齬があり、学校側の意図が伝わらない事例があった。保護者に対しては的確で漏れのない対応が求められる。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○補教やTT指導では、個々の特性に応じた適切な支援となるよう心がけている。</p> <p>○スズキ校務の「日々の記録」に配慮児童の様子や出来事を入力すると、すぐに記録に気付き、共感や助言等してくれる職員がいて、ありがたかった。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TTの先生にとってもお世話になっていて、ありがたいと思う。</li> </ul>
保健管理	<p>①児童の心身の健康的な生活習慣確立のために適切な指導管理を行った。</p> <p>※日常の健康観察、健康診断環境衛生検査等</p>				<p>【教職員前期】</p> <p>○食育指導に力を入れることで、食生活への意識が変化してきた。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○毎日の健康観察や欠席児童の状況を把握し、学級閉鎖等の対応を迅速に行った結果、感染症の流行を最小限に留めることができた。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の拡大をある程度抑えられているのは、マスクや手洗いの徹底のおかげだと思う。今後も続けてほしい。</li> </ul>
	<p>②感染症に関する衛生管理マニュアルを踏まえ、健康管理と環境整備を実施し、感染症予防の徹底を図ることができた。</p>		B ↓ B	A	<p>【教職員前期】</p> <p>○教室環境は、係の児童中心に換気や衛生管理を適切に行うことができていた。</p> <p>▲給食配膳時、マスクを忘れてしまう児童が幾分見られた。感染症対策、衛生面の両面から、配膳時のマスクは徹底していきたい。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○休み時間には窓を開けて換気を行うように声かけをしている。</p> <p>○毎朝、養護教諭が教室環境や児童の様子を見て声かけ等してくれるので、感染症の予防につながっていると感じた。</p> <p>▲感染症に対しては、予防の徹底の成果が見えにくいという課題が残る。各自手洗いなどを徹底して実施していても、各自の努力だけでは防げない状況がある。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早い対応がよかった。</li> </ul>
	<p>③体力向上プログラムを活用し、個に応じた体力づくりの推奨に努めた。</p> <p><b>新体カテストB以上の児童 40%</b></p> <p>⇒ <b>【32.3%】</b></p>				<p>【教職員前期】</p> <p>○昨年度よりも上の目標を目指して、体力作りに励んでいた。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○西小タイムや昼休みに、持久走練習や縄跳びに参加して、児童と一緒にやっている。</p> <p>○休み時間は教室にいる児童が減り、外で元気に遊ぶという意識が高まった。</p> <p>○持久走カードやなわとびカードがあったので、意欲的</p>

					<p>に取り組む児童が見られた。</p> <p>▲外に出たがらない児童もいるため、毎日声かけをしないといけない。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとびカードは効果的であった。</li> </ul>
安全管理	<p>①全職員の共通理解の下に、教職員及び児童生徒の安全対応能力の向上に努めた。</p> <p>※危機管理マニュアルの活用、安全点検、避難訓練、防犯教室、交通安全教室</p> <p><b>安全・防犯・防災知識の定着 95%</b></p> <p>⇒ <b>【96.0%】</b></p>	A			<p>【教職員前期】</p> <p>○避難訓練を真剣に行い、実際に起きた小さな地震の時も避難訓練を生かした行動ができていた。</p> <p>▲中庭で鬼ごっこをして遊ぶ児童がいるが、昇降口入りの段差や犬走りと学年園の段差が危険に感じた。</p> <p>▲児童の遊び方、廊下の歩行等、危険な行為が散見される。指導が必要と思われる。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○5・6年対象の防災教室では、火事の際の対処方法を学ぶことで、防災意識を高められた。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教室がとてもよかったと子どもから聞いている。実体験できるのは大きい。今後も続けてほしい。</li> </ul>
	<p>②児童の登下校の安全確保に努めている。</p> <p>※スクールガードとの連携</p>	A	A	B ↓ B	<p>A</p> <p>【教職員前期】</p> <p>○雷対応等で急遽、下校時刻が変更になることがあったが、スクールガードにも連絡をし、迅速に対応することができた。</p> <p>▲スクールガードへの連絡方法が電話のみであるので、メール等のより簡易な連絡方法があるとよい。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○日の入り時間を考慮し、西小っ子運動の開始期間を変更した。現実に即したものになったと思う。多くの保護者の協力を得ることができ、とても感謝している。</p> <p>▲下校時刻をしっかりと守らせたい。下学年は大変だとは思いますが、最初に出た子たちが待っているのが辛そうなので意識していけたらよいと思う。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけにより、西小っ子運動をもっと広げていきたい。</li> </ul>
組織運営	<p>①学校経営方針の具現化のために校務分掌や各主任の役割が適切に機能するように努めている。※全職員の参画意識、良好な人間関係と協力体制、情報管理等</p>			A	<p>【教職員前期】</p> <p>○公務が適切に処理できるように、分かりやすく処理しやすいデータ管理ができています。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○校務分掌会議を開催し、来年度に向けて業務の精選や分担等の確認を行った。業務は増える一方なので、「やらない勇気」をもつことも大切だと思う。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の業務過多が心配である。</li> </ul>
	<p>②効率のよい業務を行うよう努めている。(超過勤務時間月80時間以下)</p>			A ↓ A	<p>A</p> <p>【教職員前期】</p> <p>▲市町により特別支援教育に関する仕事の内容や流れ等が異なるので、その把握や作業等に時間がかかった。今年度は、1年間のマニュアルを作成し、来年度は見直しをもてるようにしたい。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>▲特別支援学級には、通常学級と全く同じ教材を購入、使用している児童がいる。そのような児童の会計の扱いは、可能なら、通常学級と一緒にしていただくと、業務も減り、ありがたい。</p> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の負担にならないか心配である。</li> </ul>
研修	<p>①学校課題解明のための授業研究を計画的に行い、授業改善に努めている。</p>			B ↓ A	<p>A</p> <p>【教職員前期】</p> <p>○マニュアルのようなものが整備されていて、学習指導の先生が中心となって全職員共通理解の元、研修が進められている。</p> <p>【教職員後期】</p> <p>○学習指導主任の先生の統率の下、学力向上に向けて全職員が同じ方向を向いて指導することができていた。</p>

				<p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の過度の負担にならないようにしてほしい。</li> </ul>
情報提供	①学校に関する様々な情報が、保護者や地域住民に、十分に分かりやすい内容で、かつ適切な分量を提供している。 ※学校だよりや学年だより学校ホームページの公開等	A	A ↓ A	<p>【教職員前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校HP（ブログ）はほぼ毎日、更新している。保護者からのリアクション（いいね！）が少ないのが寂しい。</li> </ul> <p>【教職員後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年での取組や児童の様子をクラスルームを使って保護者に知らせている。</li> </ul> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAで声かけができると思う。</li> <li>・HPはよく見ている。学級のクラスルームに関しては、個人で使用しているスマートフォンでは見られないので、見ていない。</li> <li>・学級のクラスルームについては、タブレットPCは子どもの所有物なので、親が見てよいのか等、よく分からなかった。保護者に対してタブレットPC持ち帰り際のルールを作った方がよい。（一週間の学習の様子に目を通す、クラスルームを見るなど、入学式の場などでアナウンスをしてもよい。）</li> </ul>
保護者地域との連携	①保護者や地域への積極的な情報発信や諸活動を通して学校、保護者、地域の連携に取り組んでいる。 ※授業参観、運動会等の学校行事、地域の人材活用、PTAとの連携等		B ↓ A	<p>【教職員前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4月の保護者会総会資料（案）を、HPに掲載する方法は、保護者は確認しやすく、印刷負担軽減にもつながりよかった。</li> <li>▲町の手親会の総会（4月下旬リモート実施）資料を地域に回覧することの情報共有が大切と感じた。</li> </ul> <p>【教職員後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会の駐車場整理は、PTA役員と十分な打合せを行い、当日大きなトラブルなく行うことができた。</li> <li>○各学年や学校行事等で学習ボランティアを募ると、協力的な保護者や地域の方がいるので、ありがたい。</li> </ul> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAの体制が来年から変更があるので、ボランティアの募集などに力を入れていきたい。</li> </ul>
教育環境整備	①施設の維持・管理・補修が適切に行われ、教材・教具・図書の整備を適切に行っている。		B ↓ A	<p>【教職員前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設設備の不具合に関してはすばやい対応、措置をとっていただいている。</li> <li>▲理科室備品を理科室外で使う際、使用後は必ず戻してほしい。また、消耗品は、数確認のため、使用されているものから順に使い、使い切ってから次のものを使い始めてほしい。</li> </ul> <p>【教職員後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○理科室の整頓は継続して行っている。</li> <li>○壊れたところ等があると、公仕さんが、快く上手に修理等してくださるので、助かっている。</li> </ul> <p>【学校運営協議会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>

## 5 次年度へ向けて（学校評価を受けて）

### (1) 教育課程について

日課の再検討が必要である。変更された日課の時間配分に一部、無理が生じており、次年度に向けた微調整が喫緊の課題である。

### (2) 学習指導について

学校全体として、主体的・対話的な学びへの転換や家庭学習の定着に高い成果が見られた。

成果としては、「授業の分かりやすさ（93.3%）」「家庭学習の取組（92.9%）」など、多くの指標で目標数値を大きく上回ることができた。主体的な学びについては、各教科において、児童自らが調べ、活動する授業実践が定着し、学習意欲の向上に繋がったと考えられる。また、家庭との連携として、「宿題シート」の活用により、校内で統一した家庭学習の習慣化が図られ、保護者の安心感を得られた。

課題としては、読書意欲の喚起が必要である。本が好きな児童の割合（74.2%）が目標（80%）に届かなかった。読み聞かせにおける教員の負担軽減と読書推進の両立が求められる。来年度は、目標値に届かなかった読書活動の改善と、ICTを効果的に取り入れた授業改善を継続していきたい。

### (3) 児童指導について

規範意識の向上や組織的な支援体制が評価された一方、現代的なトラブルへの対応が急務であることが浮き彫りになった。

成果としては、児童の学校生活における生活習慣の改善、意識の向上が見られた。教職員が手本となる指導により、挨拶や廊下歩行などの規範意識が向上したと考えられる。また、校内での児童指導に関する情報共有がよく機能していたことが挙げられる。校務システム（ズキ校務）を活用した迅速な情報共有と、教職員間の共感的・助言的な協力体制が構築された。さらに、組織的支援の充実も図られた。SSW（スクールソーシャルワーカー）やSC（スクールカウンセラー）、行政などとのスムーズな連携により、多様な課題をもつ児童へのチームとしての対応が機能した。

課題としては、SNS・学校外トラブルが挙げられる。SNS等、教員や保護者の目の届かない場所でのトラブルが増加しており、教員の多忙感にも繋がりがつつある。保護者への啓発や監視などの協力依頼も必要であるという意見もいただいた。

来年度へ向けては、多様化する児童の課題に対し、学校・家庭・地域の役割分担を明確にしていったり、入学時や保護者会での「SNS利用の危険性と保護者の責任」に関する注意喚起を徹底したりしていきたい。また、児童に対しては、情報モラル教育の計画的な実施が必要と考えられる。

### (4) 保健管理・安全管理について

迅速な感染症対策と体験型の安全教育が高く評価された。

成果としては、感染症拡大の最小化が挙げられる。養護教諭による環境整備と迅速な学級閉鎖等の判断により、流行を最小限に抑えられたと評価された。児童の体力作りに対する意欲の向上も見られ、「なわとびカード」等の活用により、外遊びや体力向上に意欲的に取り組む児童が増加した。また、防災意識の向上としては、実体験を伴う防災教室や避難訓練が、児童の危機管理能力の向上に直結したと評価された。

課題としては、体力テスト目標の未達がある。新体力テスト B 以上の割合（32.3%）が目標（40%）を下回っており、運動習慣の二極化への対策が必要と思われる。

今後は、さらに外遊びを奨励し、外に出たがらない児童への意図的な声かけと、教職員が共に活動する「西小タイム」の充実を図っていききたい。また、「体力向上」へのアプローチとして、効果が認められた「なわとびカード」「持久走カード」の活用を継続し、日常的な運動習慣を定着させていきたい。「楽しく動く」機会を創出し、目標値（40%）との乖離がある新体力テスト結果を向上させていきたい。

### (5) 地域連携について

地域との協力関係は良好であったと考えられる。

成果としては、情報発信の継続が評価されたことである。学校 HP の毎日の更新や各学年のクラスルームの活用により、地域に開かれた学校づくりが進んだと言える。また、新たな試みとして、PTA 総会資料のペーパーレス化（HP 掲載）など、保護者・教職員双方の負担軽減に着手することができた。地域ボランティア、保護者ボランティアの協力も充実しており、学校運営協議会や宝を育てる会等、地域人材による支援体制が整っている。

しかし、情報発信に関しては、保護者がタブレット PC 内の児童の学習状況やクラスルームをどのように確認すべきかを、入学時等にアナウンスを実施する必要がある等の指摘があった。また、地域と歩む「ふるさと学習・キャリア教育」の継続のために、サツマイモに代わる体験活動（バケツ稲など）において、「宝を育てる会」との連携による田植え支援等を計画的に取り入れるなど、地域人材の積極活用を進め、地域とともにある学校づくりを進めていきたい。

### (6) 組織運営について

教員の業務改善への意識は高まってきている。課題としては、業務の精選がある。業務過多がほとんどの教員共通の懸念事項となっており、「やらない勇気」をもったさらなる業務の精選・効率化も不可欠である。いかにして教職員の多忙感を解消し、教育の質を維持するための「精選」を行っていくかがカギである。

具体的には、今年度作成した特別支援教育マニュアル等の活用による業務の引き継ぎの円滑化を進め、通常学級と特別支援学級の会計事務の共通化など、事務負担の軽減を実施していきたい。また、スクールガード等への連絡手段の見直し（電話からメール等へ）により、緊急時の対応スピード向上とともに教職員の負担軽減を図っていききたい。